

495

に基く蒙塵と見做される。支那のノ使は身辺の危険による韜晦の連続を物語っているのだ。蔣政権の政務は日支の和平実現とある等言々をもち、併に日支の對露外交に一躍を期待されるやう。即ち独ソ軍独姦の從通となり、若しソ聯に惹かれては、断平ソの背後に一撃を加へ独軍を援助するであらう。平は、今次日米戦に於ける日支との定石であらうまい。

二月六日(土)。

午膳便所の帰途、六十歳以上とも見える二人の老人が……一人は加齢からうらいた他は山仲翁からの男……一個の Chocolate bar をめづり、会話が取りかかされた。ふたりの老人が他の老人の手には 4ヨコレートバーと発見すると、“オイ、其れはキャンデーか、今買つて来たのか” “イヤ、今貰つて来たのだ” “何んだそれ” “4ヨコレートだ” “キャンデーだ”……と言やう。即ち質問者は頗る熱心であり且つ真摯なものである。恰度子供が遊び仲間の菓物を見て羨望するやうに、傍目には可笑しくも思はれ、哀れでもあり、それか孫を持つ年輩者で、監禁の境遇に不自由な日を送つてゐる人だけに、此の会話を聞いた時、自ら悲憤を感ずる。インターン環境の一端を如実に示して居り、どれくらい堪へよう。

496

情報に依ると、先達車條首相は、不自由な生活に終始しつつある在米同胞に同情する。だが年中には英米を必し屈服せしむるから、それ迄に忍耐せよと、對外放送をやつてゐる事である。

晝食にエビの吸物があった。中も美味かった、茲數日腹具合が少々良くなり、と云つて倒れ在る位は程の苦痛でもない。

二月七日(日)。

オニ交換船
米に Charter のオニ交換船に充てらるべき瑞典
船 Grischolm 号は、豫ねてより自午に収容中の米人
に送るべき物品(万口布十字板)を積載待機中
のところに、先般漸くハドソン河を下航しから、出帆
は近きと知らずとの情報から、今朝坪井岩から報せ
られ、供も紐育方面に在る同胞中では既に生立
用意の通知を受けた者もあらう。畢竟とすれば、二月中
旬か下旬に上帆の運びに成るものと想像されるが、僕
は右オニ船に二箇口のケアンスはあらうと信じて疑は
ない。尚ほ所謂坪井ニウスに依ると、帰口
者のリストが昨晩日表されるとの情報から、
報道にても、どうも眉唾とつと思はれる。

初六時頃から句会開催。会場は暖氣十分
であり、腹にこたへるから矢張り欠席する者
いた。近來同人諸君の句は大に進歩したも
の未だ、短詩の即ち十文字の真意に富心的